

# 食品中のカビ毒分析

日本環境は高度な技術とノウハウを駆使し、企業の環境パートナーを目指しています。



**カビ毒の検査は  
登録検査機関として実績のある  
当社にお任せ下さい。**

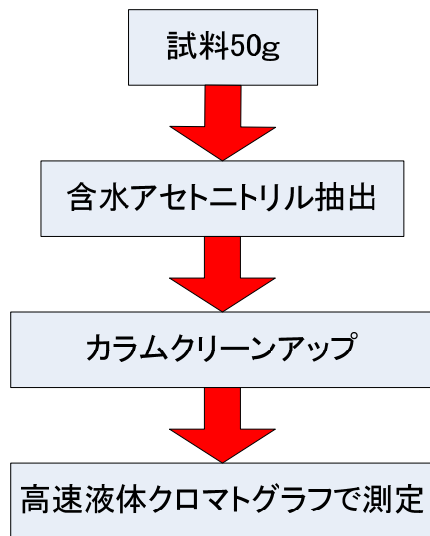
## ●カビ毒分析

カビ毒とは、カビが生成する代謝産物のうち、ヒトや動物に毒性を示す物質の総称です。その種類は現在 300 種類以上あり、発癌性あるいは強い毒性を示すもの、食中毒を起こすもの、食品への汚染が認められるものが食品衛生上の問題となっています。

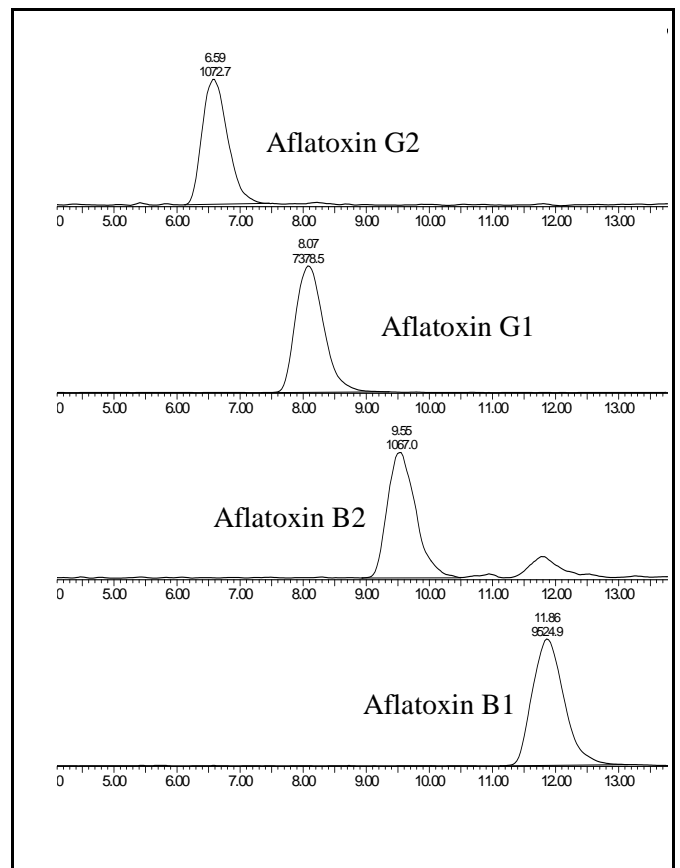
わが国でも、特に発がん性が強いことで有名なアフラトキシン B1 は、全ての食品において 0.01ppm 以上検出されてはいけないこととされています。さらに、赤かび病の原因菌とされる Fusarium (フザリウム) の一部の種類が産出するデオキシニバレノール (DON) とニバレノール (NIV) は、米や麦類、とうもろこし等の穀類を汚染することが知られており、暫定基準値 (1.1ppm) が設定されています。

カビ毒の被害を防ぐには、流通段階でカビが生えないように、「温度・湿度管理」を行うとともに、定期的な検査を行う必要があります。企業様のリスク管理にぜひお役立て下さい。

## ●分析フロー (アフラトキシンの例)



高速液体クロマトグラフ(LC/FP、LC/MS/MS)



ミックスナッツの分析

●分析サービスに関して

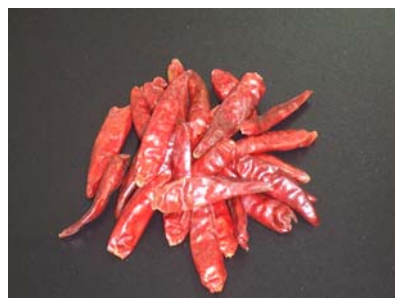
測定対象物質	標準納期	分析対象
アフラトキシン B1	5 営業日	穀類、ナッツ類、香辛料類など
トータルアフラトキシン (B1・B2・G1・G2)		
デオキシニバレノール(DON)/ ニバレノール(NIV)		米、麦類、とうもろこしなど

●輸入食品の検査命令(平成 21 年 7 月 31 日時点)

※全輸出国が命令検査の対象となっているもの

【アフラトキシン】

- ✚ 落花生及びその加工品
- ✚ ピスタチオナッツ
- ✚ ブラジルナッツ、ジャイアントコーン、アーモンド、クルミ、チリペッパー、レッドペッパー、ナツメグ及びハトムギ
- ✚ ミックススパイス
- ✚ 乾燥いちじく



日本環境は以下の項目の調査・分析についても最先端の技術を提供いたします。

- ・食品中の残留農薬分析
- ・特定原材料含有検査（アレルギー検査）
- ・重金属検査
- ・輸入食品検査（命令検査・自主検査）
- ・ペットフード成分規格検査（ペットフード安全法対応検査）



●カビ毒分析の  
お問い合わせ先:



日本環境株式会社

厚生労働省登録検査機関  
[www.n-kankyo.com](http://www.n-kankyo.com)

● 神奈川事業所	〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 3-12-31	TEL.045-501-8271	FAX.045-502-0437
東京事業所	〒134-0091 東京都江戸川区船堀 5-11-19	TEL.03-5676-8711	FAX.03-5676-8710
横浜事業所	〒236-0003 神奈川県横浜市金沢区幸浦 2-1-13	TEL.045-780-3851	FAX.045-780-3847
千葉支店	〒272-0014 千葉県市川市田尻 3-4-1	TEL.047-370-2561	FAX.047-370-3050
埼玉支店	〒336-0964 埼玉県さいたま市緑区東大門 2-2-14	TEL.048-812-6222	FAX.048-878-7563
大阪事業所	〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 1-7-23	TEL.06-6990-7571	FAX.06-6990-7572